

ISBN 978-4-901941-24-2 C3671



「かんの画集を下さい。

黒と赤が、くわくわん描かれて

手書きが、とても

絵の、線が、運んで

描くしがたいである

「かんの画集を下さい。

黒と赤が、くわくわん描かれて

手書きが、とても

絵の、線が、運んで

描くしがたいである



2007年に電子出版  
された『Miroの一番星』  
(詩とドローイング)  
(C)Rica Ojara)は、  
WEBにて無料で  
読むことができます。



La Ojara

発行人 おじやら りか

発行所 おじやら画廊

11110-0031 東京都足立区千住川の五十八

(C)Rica Ojara

パンクの襟の女 2008 Oil painting / (C)Rica Ojara



VOL.1

2004  
S  
2009

コンテンポラリーアーティスト  
おじやら りか 作品集



「かんの画集を下さい。  
黒と赤が、くわくわん描かれて  
手書きが、とても  
絵の、線が、運んで



HP <http://ojara.net>  
e-mail rica@ojara.net



## 創作をするということ。

私はまだ、こんなに無名というのに、アトリエを持ち、ギャラリーを持ち、創作を生活の中心に置き、息をすることができるというのが、何よりの幸せであります。

売れるとか、売れないとか、そういうことを取り除いてとりあえず、作品を作る。とりあえず、絵を描く。

それが、私の仕事なのだと、最近は思えてきました。

作品には、作る人の魂が宿ってしまうのです。  
だから、作品を作る私も、勉強し続けなければなりません。

良い絵に触れ、画家の生涯に学び、また作品を作る。

そして、自分の作品の稚拙さに打ちのめされ、もっと良い絵にならなくては駄目だと、結果を真摯に受け止め、  
そして、また新しい一枚を描く。

作品を作るということは、そういうことの繰り返しなのです。

あなたの絵はちょっといいと思わない。とか、よく解らない。  
今まで見たことが無い。そんな感想を言われます。

でも、私は、見た人がよく解らない、ちょっといいと思わない。  
そういう作品も作るうと心を碎いているのです。

ですから、あなたが、そう思ったのであれば、私が意図した通りということになります。

現代アーティストは、イタズラ心、見た人をビックリさせようという意志を持ち創作をしています。だから、見るほうも、何を見ても驚かないぞ、その手には乗らないぞ。そういう気持ちで、作品を見てください。

それは、ジャンケンの一発勝負に似ていると思うことがあります。作品を見て、何らかの感情の動き、例えば、スゲーとか、よく解らないとか、ちょっといいと思わない、こんな作品は今まで見たことがない。こんなの、アートじゃない。と、心を動かされたのであれば、鑑賞者の負けということになります。

創作者のはしきれとして、私らしい絵、私にしか描けない絵を描くのと同時に、まだ見たことの無い、新しい表現というのを模索し続ける。

それこそが私の仕事であり、道なのです。

コンテンポラリー(現代)アーティスト おじやら りか

## 大作に挑む/塑像創作風景



↑写真(C)原 幸次(陶芸家) 陶芸工房 一隅にて撮影

2008年4月 プリマベーラ



2006年8月 モンブラン多笑娘  
(裏は泉 デュシャンによる)  
先生の指導通り作った作品。



2006年8月 ガビガビちゃん(sold)  
はじめはおとなしく先生の  
指導に従っていたのだが、  
飽きてきて、先生の言う事  
を聞かずに作った作品。  
ガビガビにひび割れながら  
も、こちらを見つめてくる。



2008年5月 フヤン(sold)  
島田安彦コレクション



2008年5月  
ドロレス(sold)

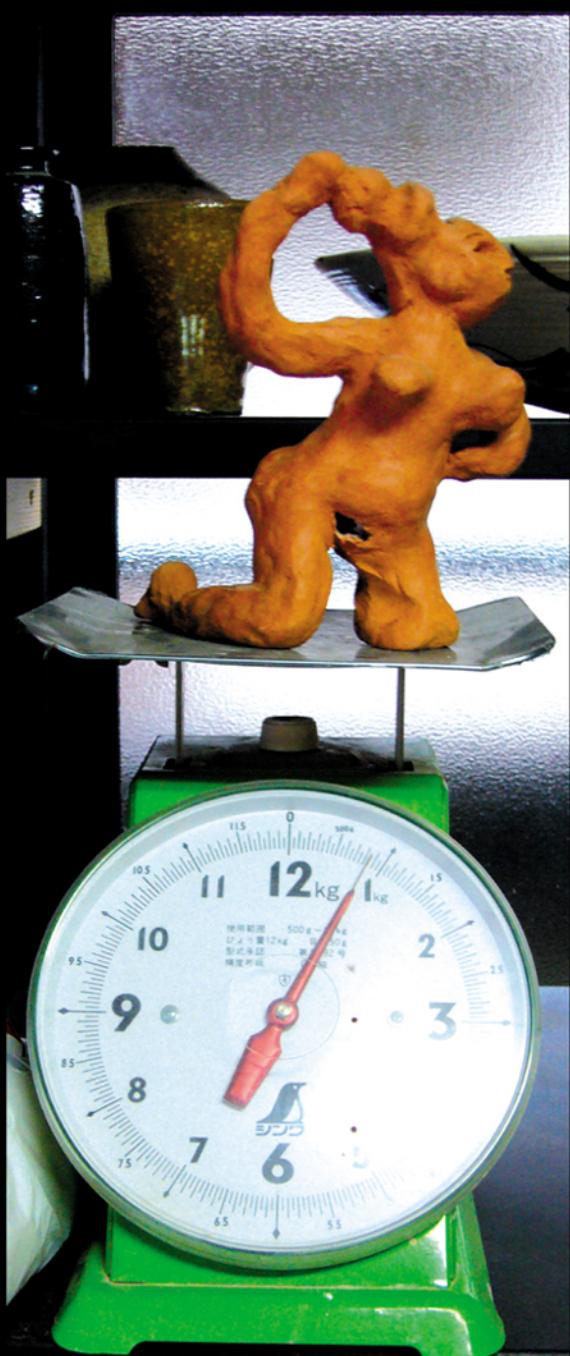
裸婦がサラサラと  
描けるようになり、  
立体に進みたいと  
考えるようになった。

2006年、上野の東京藝術大学の一般公開講座に参加し、北郷悟教授に、塑像の指導をして頂いた。

それまでの紙粘土作品から、飛躍的な造形の進歩が見られ、教授にも、あなたは小さな窯を買い、創作を続けるようにというお言葉を頂いた。

その後、町内に陶芸工房があることを知り、陶芸家の原 幸次先生にご指導頂きながら、一隅窯にて作品を焼いて頂くことになる。

陶芸工房一隅は、ココグラン(千住3丁目のホテル)と、ラ・シェンナの間の路地を入りすぐのところにあります。アットホームでいいお教室です。隣のカフェ「涼」もgood。



計られるニーナ

プリマベーラ(右の塑像)にへそを描き  
いれています。



包帯アーティスト 寺田 忍さんとのコラボレーション

彼は、ある日、ギャラリーを訪ねてきて、そのあと、私の立体作品のいくつかに、包帯を巻いてくれた。

イベントデーを設け、ゲストの顔に包帯を巻くイベントを開いたりもした。

作品は、時々、包帯に巻かれたまま売られてゆく。  
左の作品、プリマベーラも、腕にはギブス、体には包帯を巻かれて  
展示されてしまう。この作品は、別名「オッパイ大明神様」と呼ばれ、  
オッパイ運がつくという噂のため、みんなこっそりと触ってゆく。

手前にある作品

ニンニク型小壺。2008年6月頃作成。  
ほんやりしていたら、大量に  
作ってしまっていて、この有様。

この作品の特徴は、花を挿すと、  
花瓶が倒れてしまうところである。

何度も挿しても、なだめてもすかしても、  
花瓶ごと倒れ、仕方なく、花は横向き  
に活けられる。(イラっしします)  
そして、光に向かい頭を持ち上げ  
るのである。

下の櫻の花台も、オジャラ作。  
インターネットの木材を購入し、  
ラッカーで塗装。  
うしろにあるのは、抹茶茶碗と花器。



手前の3匹、色がついている部分は油彩



ニーナ 2008年4月

立体というのは、『前からも後からも、上からも下からも  
鑑賞できる』というのが、平面と最も違う点だと思います。  
ですから、後姿が間抜けかどうか、お顔がカワイイか。  
そういうところにも、気を配らなければなりません。



本を読む女 2009年6月



R. MUTT 1917氏の肖像 (リチャードマット 1917)

左 正面

上 裏側

右 横顔

2008年4-5月作成

\*リチャードマット氏は  
マルセル・デュシャンが  
1917年に泉(便器)を、展  
覧会出品するためでっ  
ちあげた架空のアーティ  
スト。



# OIL PAINTINGS

2009



唄う女 2009 (sold)  
別な絵が描いてあるカンバスボード  
のうえに描画12号程度 油彩

## 油絵と私

私が油彩をはじめたのは、大学を卒業してからである。

一人でできる趣味を持ちたいと考えたこと、高校時代に、美術クラスで買わされた油絵の具が丸ごと残っていたこと。

そして暫くは、ベニヤ板なんかに絵を描いたりしていたけど、色彩の表現に苦戦。

ある日自宅にあった、古いルノアール展の図録を開くと、梅原龍三郎の手記があった。ルノアールが、どのように絵を描いていたのかといふコラムで、下塗りの仕方や、使っている色などについて説明があった。

私は、この技法を真似ることにより、美しい色彩を手に入れ、我流で絵の道を切り開くことになる。

2008 黄色い襟の女  
F6 キャンバス/油彩  
絵の具チューブ/キャップ



足立区の現代美術家『木材林吉』先生の作品を拝見したのは、2004年のことである。その自由な絵の具の使い方に、私の心は大きく動かされた。その作品（キャンバスに穴があいていて、裏から表に絵の具が、ニヨロリと、飛び出している）は、いつまでも私の心に残り、ありきたりな平面表現から、現代的な作風へと進化を進めていった。

先生の作品を拝見しなければ、私は、キャンバスに古くて固まった絵の具や、絵の具のチューブ、キャップを貼り付けることは無かったであろう。

木材先生が私の作品を見てくださったとき、「あなたの作品には品がない。」そう感想を述べられた。私は、作品の『品』についても、学ばなくてはならなくなってしまった。これが画業というものなのだ。先生、稚拙な作品を見てくださってありがとうございます。

古い絵の具は、手もちがなくなれば、もう作ることはできなくなる。

基本的に目指している絵というものは、流麗な線により縁取られた影の無い絵である。そのための筆運びの鍛錬と、膨大な素描、油彩制作を繰り返している。

今までの方法に囚われない、自由で新しい作品。

見る人の心を動かす作品を、たった一枚でいいから残したい。

2003-2005



キチッと描いた絵も、伸びやかに描いた絵も、どの絵も、私の絵であることに変わりはない。



## 古い絵の具

2007年はじめごろ

乾燥棚から取り出した昔の絵が、余りにも下手窶だったことに逆上する。アタシは、別な絵にしてやろうと、その絵の上に、厚く絵の具を塗りたくった。今度は、カチカチに固まった絵の具を、ハサミで輪切りにして、ベタベタの画面に貼り付けてゆく。

私は、狂ったように絵を描き進んだ。

絵の具をどんどん使った。そちら中に散乱している、洗濯板みたいに伸びた絵の具チューブの残骸や、鉛のキャップ、使いすぎてチビた絵筆やなにかも、可愛く思えてきて、絵に貼り付けてみる。今では珍しい鉛のチューブやキャップは、長年の酸化と絵の具との科学反応により、金属が黒い塊に変化してゆく。

チューブ穴の軌跡を持つ絵の具の線は、長い時間をかけて、中まで乾燥を進めるに違いない。何十年もかけて、絵の具はきっと、シワシワになったり、ひび割れてくるはずである。

それは、まるで人間みたいだ。  
そう気づくと何だか嬉しかった。

絵画が恒久性を持たなければならぬと、誰かが決めたわけではない。

ぼんやりとしていたら、作品が沢山できてしまう。  
もう少し、色の配置や、遠目の濃淡に気を配って、全体的な完成度を上げてゆくのが、今後の課題である。  
品もプラスせねば。

自分の激しさが、作品に現れてくるようになり私は救われたと思った。

# 薔薇と私

池田満寿夫さんの本に、『薔薇さえ描ければ、画家は食べてゆける。』  
そう書かれていたので、売れるアテのなかった私は、せっせと薔薇を描いた。梅原龍三郎の薔薇も、ルノワールの薔薇も、確かに素晴らしい。

薔薇の小品で生活費を稼ぎながら、大作や自分の描きたい作品を作ったのだと理解した。

ここだけの話だが、アタシは、人物画家を目指している。  
だから、新しいカンバスには、まず、人物を描く。  
そして、失敗した人物画の上に、薔薇は描かれる。  
下の絵を隠すように、厚く絵の具を盛り、もう、慣れた手つきで、薔薇を描き進む。

良い薔薇は、すぐに手を離れてゆく。手元には、不出来な薔薇ばかりが残る。その薔薇に、今度は絵の具を塗りたくり、今度は抽象画になる。

白い薔薇は難しい。赤やピンクは、見栄えもよくて、出来上がりも引き締まる。白となると、色は濁るし、かといって真っ白では、絵に深みが感じられない。

だから私は、一番難しい、白い薔薇をいつも描きたいと思う。

潔く、ウソの無い、真っ直ぐな気持ちを、白い薔薇で代弁したいと思っているからである。



2008 S M (SOLD)



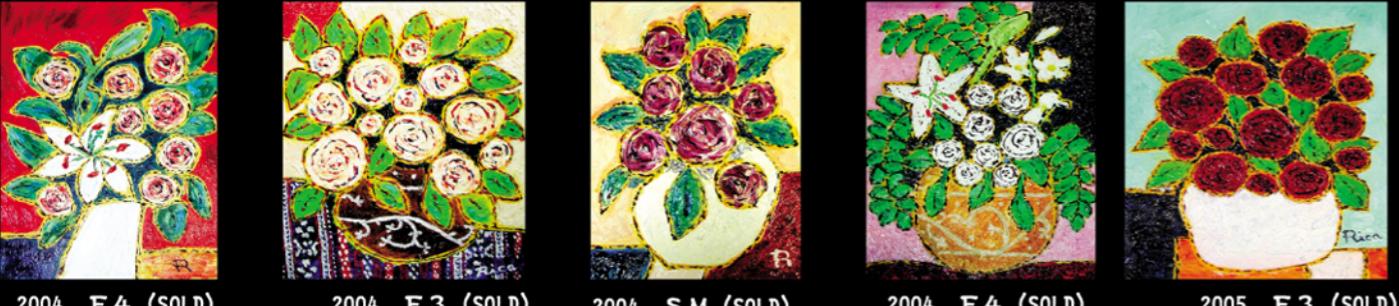
2005 F 10



2004 F 4 (SOLD)



2004 F 4 (SOLD)



2004 F 4 (SOLD)



2004 F 3 (SOLD)



2004 S M (SOLD)



2004 F 4



2004 F 3 (SOLD)



2004 F 8



2008 S M (SOLD)

2005 F 3 (SOLD)

2009 F 3

2009 F 4 (SOLD)

2005 S M (SOLD)



2005 F 3 (SOLD)

2004 F 4 (SOLD)

2004 S M (SOLD)

2005 F 10 (SOLD)

2004 F 0 (SOLD)



2004 F 4

2004 F 4 (SOLD)

2003 F 8 (SOLD)

2004 F 4

2004 S M (SOLD)



2004 S M (SOLD)

2004 S M (SOLD)

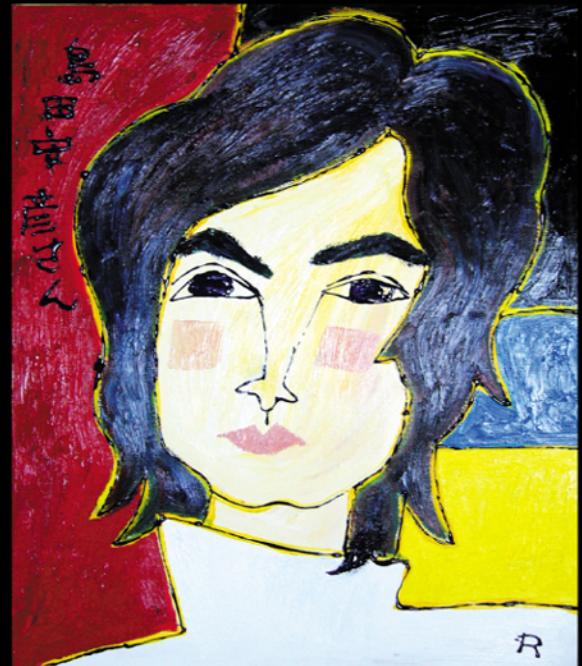
2004 S M (SOLD)

2005 F 3 (SOLD)

2005 F 3 (SOLD)



F12 大道芸の女 (100五)



F8 収集家 島田安彦さんの肖像 (100八)



## 肖像画家への道

私の絵の中で、最も特徴を持っているのは、人物画じゃないかと思う。

薔薇や、その他の花であっても、ある程度のオリジナリティは出でては来ているが、人物画は、早い時期から、顕著な特徴が現れはじめた。

どうせなら、モディリアーニのような、人物画家になりたい。

漠然と、そんな風に思う。マティスとか、ピカンではなく、どうしても、モディリアーニの絵が思い浮かんでしまうのだ。

油彩を描くときに、写真を見て描いたりすることはほとんどない。例えば、このページの肖像画で、写真を見て描いた絵は、くーみんの肖像(依頼による)と、新聞記事に写真が掲載されていた、芥川、スザンの、3作品だけである。

ほとんどの絵は、モデルがいて、本人をクロッキーで、数枚から、数十枚描画の後、その絵を見ながら、もしくは、脳ミンの記憶を頼りに描かれる。

特に、黒田さん、竜さん、島田さん、渡さんの肖像画は、脳裏に残っている記憶から、一気に描画したものであり、写真などよりも特徴がでていると思う。(竜さんと、大道芸の女(バーバラ)は、あまり似ていない。アンドレアを描いたのは初期であり、描画の力が稚拙だった)

私は、男性の絵というのは、ほとんど描かない。男性が描かれている作品は、描かなければならぬよう、人生における、大きな記憶や重大事件が、私にその絵を描かせ、いつの間にか完成していたという事実。

モデルによる長時間に渡る固定ポーズの場合には、その場で、絵を仕上げてしまうことが多い。ゴアサ嬢の肖像に関しては、何も考えずに出来上がった絵が、彼女に似ているので名前をそのようにつけてみた。

いつか私の肖像画や裸婦が、モディの絵の隣に並ぶ日が来ますように。



F10 M姫の肖像 (100四)



2003 F8程度 陶器店サリアピ主スザンの肖像(sold)



2004 F30 横たわる女



S.2004 F30 横たわる女



U.2003 SM前後 アハムント



2008 F6 くーみんの肖像



2005 F6 竜さんを描く黒田さん



2005 F10 座る女



2005 F12 八百倉家の肖像



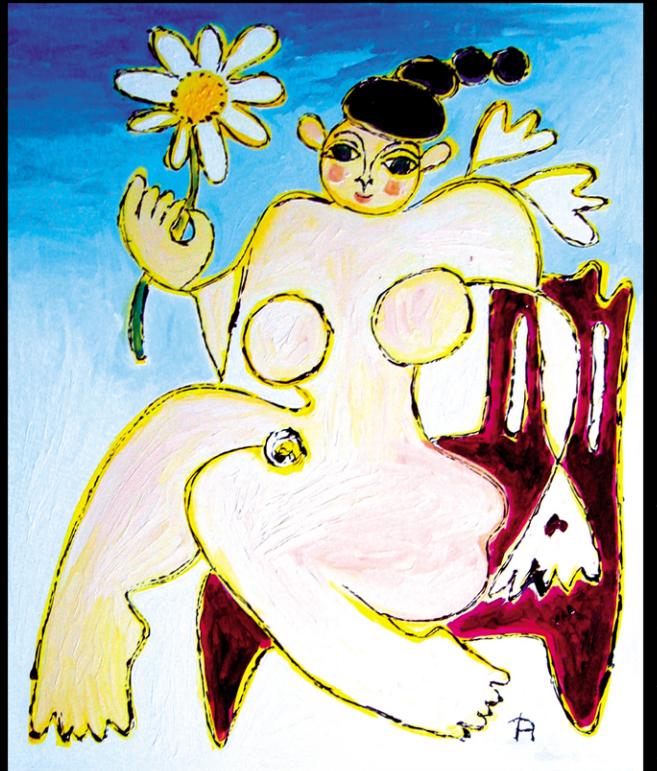
2007 F10 新妻の憂鬱



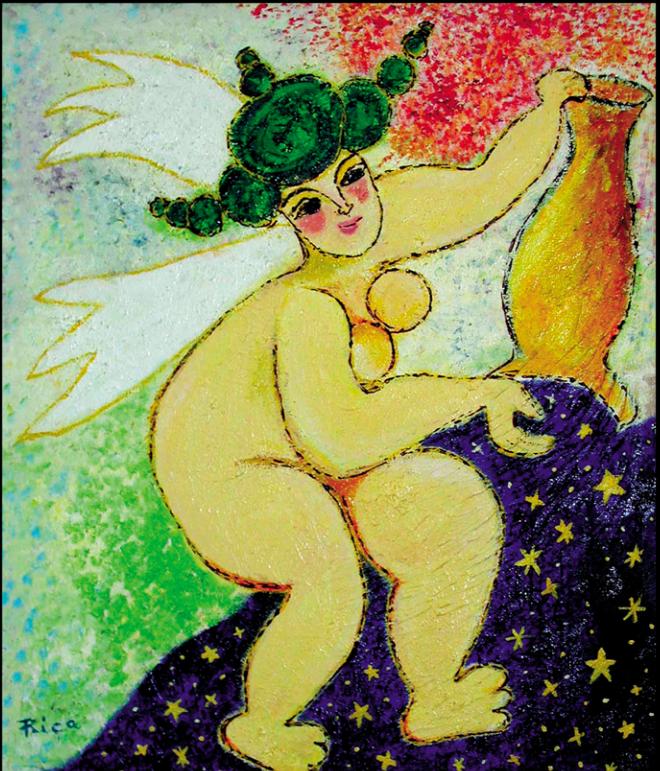
2007 F10 花嫁



2007 F20 ゴアサ嬢の肖像



Sold. F10 腰掛ける天使 二〇〇六



Sold. F10 星を降らせる天使 二〇〇五



S. 2008 F0 ピエロ



S. 2008 F0 ピエロ



S. 2004 F4 元気届けにきた

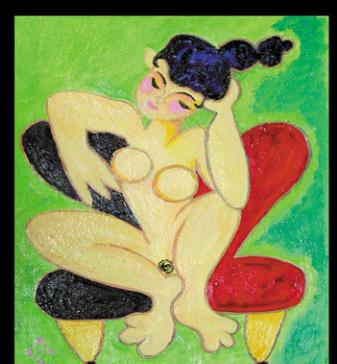


2003 P30 タバコを吸う女



F4 横たわる女 二〇〇七

何故女性の絵ばかり描くのかと、質問されることがある。  
『男の絵は売れませんからね』と答える。  
日本の場合、風景画が一番よく売れるのだそうだ。  
その次に、花や静物。そして、人物画というのは、最も売れないジャンルなのだろう。  
逆に人物の絵というのは、絵の中で、描くのが最も難しいと思う。  
アタシは、気丈で、一生懸命生きている、凛とした女性を、ライフワークとして描いて行きたいと思っている。  
自由で柔らかく、優しくて、強い女である。



## 女と花

絵を描くときには、それが、どんな画材であっても、だいたい、同じような順番で描いている。

女・女・女・猫・女・花・花・女・花・女・猫。  
そんなふうに、私の場合、最初に描くのは、必ず女の絵なのだ。失敗した人物の絵の上に花や、抽象画、ときどき猫。そういう作画の繰り返しなのである。

モデルは、いてもいなくても、いくらでも絵が描ける。もともとの絵が大きいというのと、油彩は描くのが難し

いという理由から、小さな絵では、躍動感などが、まだ出でていない。

もう少し、細かい筆運びを鍛錬するか、自分なりの技法を開拓し流麗なる線、人物の動きや内面の感じられる絵を目指したい。



S. 2006 F50 白い花を持つ自画像 二〇〇六



S. 2008 F5 白いドレスの女 二〇〇八



『黄色い葉、時計、花、スンバ島の布』  
2003 バリのカンバス 40\*40程度



2007 F50 平成おりん（マネへのオマージュ）



S. 2006 F50 夜風、種を届けに来た 二〇〇六

この作品集は、今までに売れてしまった絵や塑像に特に注意して作成しています。

将来美術品となり、私の作品が、マーケットに流通する日が来た時に第三者による真質の確認を容易にする目的です。

中には若しく稚拙な作品も混じりますがご容赦下さい。



F50 夜風、種を届けに来た 二〇〇六

# 猫・猫・猫

私が、人生の中で、猫と暮らさなかった時期は、僅かである。

バリ島に移住するときにも、愛猫は連れて行き、一緒に帰国した。

今の猫は、代がわりし、HANAという名の丸顔の美人さん。シッポの先が白いのが自慢。



ごはんを待つときは真剣。  
写真(C)おじやらりか



2007 F4 ケン吉



2007 SM 縞の猫



二〇〇四  
銅版画  
インク  
縞の猫



二〇〇六  
F10  
ベニヤ板・油彩  
ケン&コケン  
(sold)



2003 F8 縞の猫



2005 SM 縞の猫(sold)



R  
2005 SM 縞の猫(sold)



R  
2005 SM 縞の猫(sold)



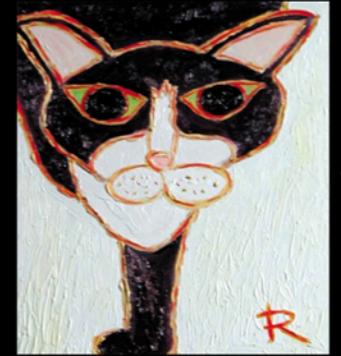
←カラーインク/水彩紙  
HPよりにゃんこカレンダー無料ダウンロード



2005 SM 縞の猫(sold)



2005 F4 縞の猫



二〇〇三  
F3  
ひーたん



2005 FO  
縞の猫(sold)



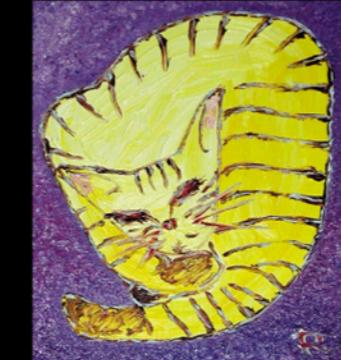
二〇〇五  
F4  
クマガイモリ  
カズ風のケン



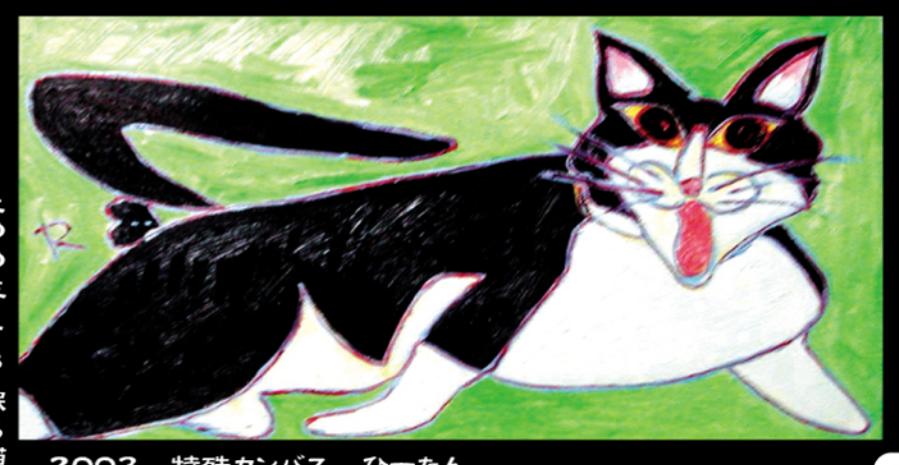
2005 F3 花帽子の猫



2005 F4 花帽子の猫 (sold)



二〇〇三  
F8  
眠る猫



2003 特殊カンバス ひーたん

描いてみると解るのだが、猫は、縞に限る

# コンテンポラリー



最近、自分の作品に自信ができたのか、自らを現代アーティストだと名乗るようになった。

別に、コンテンポラリー作品が売れたということでもないのだが、創作のウエイトやコンセプトは、圧倒的にコンテンポラリーが主流になってしまった。

誰が見たって、頭がおかしいと思えるような、例えは、こんなのが藝術じゃないっていうような作風の作品を見せては、相手がどんな顔をするのかを見るのが、私のささやかな楽しみでもある。

『どうして、コンテンポラリーに進んだんですか?』  
知人の間に、私は、『この道を避けて通ることはできなかった』と答えた。

経済的困窮から、廃材を利用して、創作をせざるを得なかつたということもある。

洪水のように押し寄せてくる現代作品の流れは、私の作風を全く違うものへと描きかえてしまったのだ。

私的な解釈をすれば、現代作品の鑑賞点は二点。

- ・見たときに、心が動かされるのか
- ・どれだけ強く、長く、記憶に残るのか。

この2つを満たす作品を作ることこそが、創作者のゴールであると考えている。

今作っているコンテンポラリーの作品に、満足しているということではない。

コンテンポラリー作品の自由な気風は、たぶん私に合っているのだと思う。

テラコッタ像→  
色のついた部分は  
油絵の具による着彩



上 天使雛 2008  
下 土偶天使 2008  
(sold)



## 文房堂 OILチューブ&キャップシリーズ 2007年-

年末に、イラストの大きな仕事が終わり、私にとっては大金が入ってきた。私は、まず、次の絵を描くための、キャンバス200枚と、倒産品の古い絵の具を500本ぐらいを、安く買い入れ、残りは、小さな陶芸壺を買うために貯金した。

年が明けて絵を描き始めると、絵はどんどんとできて、そして、あっという間に、もう、絵を描くスペースがなくなってしまう。

この絵は、乾燥に時間がかかるうえ、積み重ねができない。しかも、ほとんど売れないため、相当凹んでいる。

大量に絵を見て歩いてもいるつもりだが、こういう表現は、見たことがないけどなあ。内心そう思ながら、見る人の理解を得ることはまだできない。

作風が、少し進みすぎてしまったんだろうか。

かといって、昨日に戻るわけにはゆかない。  
薔薇の絵には、もう飽き飽きだ。

作り進むと、作品も安定てきて、全体的なまとまりがでてくるようになつた。例えは、これが全く売れないとしても自分の道を信じて、作り続けるしかない。

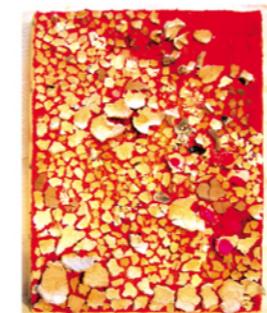


2007 SM sold



2007 SM

F4 キャンバス/油彩/  
陶片 2007



下 拾った鏡と木製額  
美しい木彫の額に、小さな鏡。(sold 2007)  
余りにもステキな額なので、アクリル絵の具で  
ペイント。鏡の裏をニードルで削って描画。



陶芸をはじめるようになり、タマゴの殻の中に、ドベを薄く塗って素焼きをする。  
ほとんどのタマゴは、タマゴの殻の造形を留めながら大破。

私は、油絵の具を塗ったキャンバスの上に、その殻の造形の陶片を並べてみると。  
これでいい。

かえるの壁掛け 2007→  
ジグソーリーという、小さな電動のこぎりを購入する。ギャラリーの看板などを作ったときの、余った材料でハンス・アルプ風の木彫にチャレンジ。木材・ウレタン塗料



←愛国心 2006  
カシューでペイントした  
古い重箱の中に、金杯・  
失敗した紙粘土のオブ  
ジェ、その他を詰める。

見る人は、重箱の蓋を  
自分で開けて、中を見る作品。



# イラストレーション & ときどきエッセイスト

絵を描くこと。イコール、筆運びの正確さである。  
自分の思った場所に、思った線をスッと引けないと、良い絵には仕上がらない。

描画の力が不足している人の絵は、失敗した線を何度も作り直すから、時間がかかるし、絵もぼやけてしまう。

基本的な筆運びの力を上げるために、私は、ドローイング、電車の中ではボールペン描画、ところどころでは書(俳句や詩の書写)を組み合わせて、大量の習作に挑んでいる。

そういった、水彩やカラーインクなどの作品を見て、仕事を頼んで下さる奇特な方も、世の中には存在するので驚かされる。  
イラストや、グラフィックデザインのギャラは、絵の具代の足しにし、余った分は、美少女の作品収集に充当してきた。

今は、どちらかというと、ギャラリー運営にお金がでてゆくので、そちらに回ってしまうという状態である。

イラストやデザインのお仕事は、私の作品を沢山の方に見て頂けるチャンスでもあるので、今後とも増やしてゆきたい。

イラスト付きエッセイも連載中。ビジネス系・旅系が得意。HP「おじやらのバリ島」は有名サイト。



ドローイングは、電車の中と旅先では、ボールペンを使っているが、それ以外の作品は、ガラスペンと、カラーインクを利用することが多い。ガラスペンが作り出す、予期しない不安定な線と、インクの鮮やかさ、はみ出工具、予期しない滲みや、線の太さが絵をヘタクソに見せてくれて、その方が、お客様のご要望に近いというのがその理由である。(上手くなると怒られる)

海外でスケッチをするときや、失敗したくないときには、ボールペンと水彩絵の具を使う。そちらの方が、上手く描けるからだ。紙は、本気のときには、ハーネミューレという、フランスの水彩紙

を使っている。普段は、コットマン。練習用には、100円画用紙とか、印刷屋さんから頂いた紙の端切れ、封筒の裏、ダンボールなどに描く事もある。CGはもう作らないと思う。

2002年から雑誌 I.M.press 誌のカバーイラスト/エッセイを担当。他カット・挿絵等多数実績あり。



| ● 楽ちんバスコース(復路用でご利用下さい) |                    |
|------------------------|--------------------|
| はるかぜ駅(西新井駅行)           | 東武バス時刻表(西新井駅行)     |
| 伊興三丁目(西11系統 200円)      | 西新井防消署前(02系統 210円) |
| 時 平 日 土・日・祝            | 時 平 日 土・日・祝        |
| 10 - - 26              | 10 22 53 22 53     |
| 11 06 01 36            | 11 21 52 21 52     |
| 12 16 11 46            | 12 19 50 19 50     |
| 13 21 21 56            | 13 18 48 18 48     |
| 14 26 56 - -           | 14 17 47 17 47     |
| 15 26 56 - -           | 15 15 45 15 45     |
| 16 36 01 36            | 16 13 43 13 43     |
| 17 16 41 11 46         | 17 43 43 43        |
| 18 06 31 56 56         | 18 13 42 13 42     |

(注)朝と夜の時間帯は省略しています。)

◆足立区観光交流協会会員募集◆  
個人会員 年度会費 3,000円  
(毎年4月から翌年3月まで有効)  
お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

会員登録多めあります! ふさわしく足立の魅力  
見出しや説明文を掲載してくださる方の  
ご入札をお待ちしております。

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番地) 駐車料金無料  
E-mail k-kankou@adachitokyo.jp

お問い合わせ先  
足立区観光交流協会 電話 (03)3880-5853  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
(足立区新所沢3番

# 素描・ドローイング

画家を目指すのであれば、一流の画廊でデビューしたい。まだ、力が足りないから、画廊に売り込みをかけるとしても、もう少し絵の力が上がってからにしよう。

1万枚のドローイングを描く。

デビューまでの目標をそう決め、習作を繰り返してきた。

ピカンやマティス、ジョアン・ミロ、レオナルド・ダ・ヴィンチの作品を拝見すると、どの絵も、1回で、ずっと描かれているのに、美しく仕上がっている。このぐらいの素描の力を持たなければ、画家になれるはずがない。

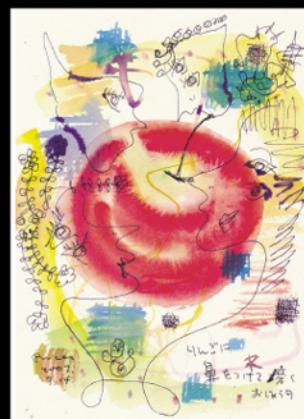
私は素描の鍛錬のため、ボールペン・ガラスペン・書など、書き直しのできない画材を使い、一回で作品を仕上げるという練習を重ねている。

クロッキーに行けば、3時間ぐらいの間に、キチッと絵の練習ができるので、行けるときには行くし、個人的に美人さんにモデルになってもらって、絵を描かせてもらうこともある。

バリ島、藝術の村(UBUD/1999-2003)に滞在中は、クロッキーが週に4度も開かれていて、モデルには恵まれた。世界各地から来る金髪・青い目の観光客をはじめ、インドネシア人、バリ人、日本人などのスケッチは、私の財産である。

人間というのは欲深く、満ち足りるということもない。美人ばかりを描いていると飽きてくる。太めや細めも描いてみたい。  
『誰でもいいから、脱いでそこに座ってくれないか。』  
というのが画家の本音である。最近は、もう少し躍動感のある絵を描きたいので、その辺の勉強や模写もし、次の絵を描く。私の場合、モデルがいてもいなくても、作品を作り続けることができる。紙やキャンバスに向かえば、女ばかりを描いている。

目標達成まで、あと5000枚。画廊を始めたため、創作のペースが少し落ちてしまったが、今後も、デビューを目標に、年に1000枚前後目標に、素描の習作を続けていきたい。



自転車操業 2006 sold 紙 カラーインク



## 描くときに 考えていること

絵を描くときに、何を考えているのかと、よく聞かれます。

アタシの場合、ほとんど何も考えていないんです。

ああ、今度は猫を描こう。そうすると、猫が出来上がっていて、ヘタクソなので、もう一枚描いてみて。

ま、こんなもんかな。  
そう思うと、また、女を描いたりもして。  
そして、余りにも下手な絵が並んで頭にきて、それで、しばらく描いてないんだけど、アタマにきていても、絵は上手くならないので、もう少し画力が上がるまでまた描こうという決意です。

# あたりえ おじやら

2003年5月、バリ島から帰国。  
7月に、あたりえとなる小さな古家を見つけ、  
以後、ここが私の創作の拠点となっている。

そもそも多作で、油彩を多く作るため、絵を描くと同時に、作品を乾燥させるための、ある程度のスペースはどうしても必要だった。

震災直後に建てられた、三軒長屋の真ん中。  
間口が二間、奥行きが四間の木造建築で、  
小さな庭には日陰の植物が自生している。

油彩の場合、2ヶ月ぐらいは乾燥させたい。  
できれば、二年ぐらい乾燥させて、その作品  
がひび割れたりしていないかも確認をし、ひび  
割れなどを直してから売る分に回したい。

日々そういう気持ちではいる。

絵が売れれば絵の具を買う。

銅版画のプレス機もある。

(長い間、文房銅アートスクール  
にて、作田富幸先生(一時は  
長島充先生)に、銅版画を習っ  
ていた)

私は、何という幸せ者なんだろ。



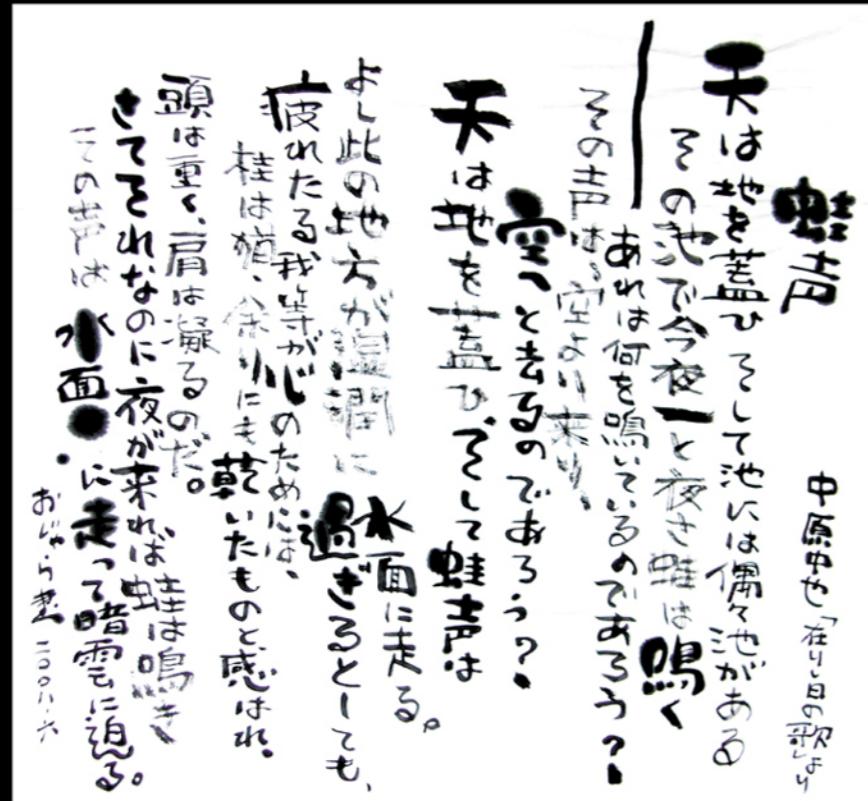
あたりえには、銅版画のコレクション



二〇〇五年十一月  
あたりえ個展の様子



花帽子の女たち



## 書と俳句

俳句を始めたのは、まだ、バリ島にいる頃だった。  
インターネットで俳句を教えて下さった方がいて以来、自由律俳句一筋である。

俳句の練習と、筆運びの習作を兼ねて、私は、尾崎放哉や、山頭火の俳句を書写してきた。  
時には、俳画をつけることもある。

俳句というのは、そもそも自分のことを詠むもので、ある種の日記のような、個人的な記録性も備える。

### おじやらの俳句

ピカソも山頭火もアタシも裸足  
はなの絵はきんいろにふんわりと咲く  
にじみゆく薄墨の笑顔  
おんなじことくりかえす、少しおっけー

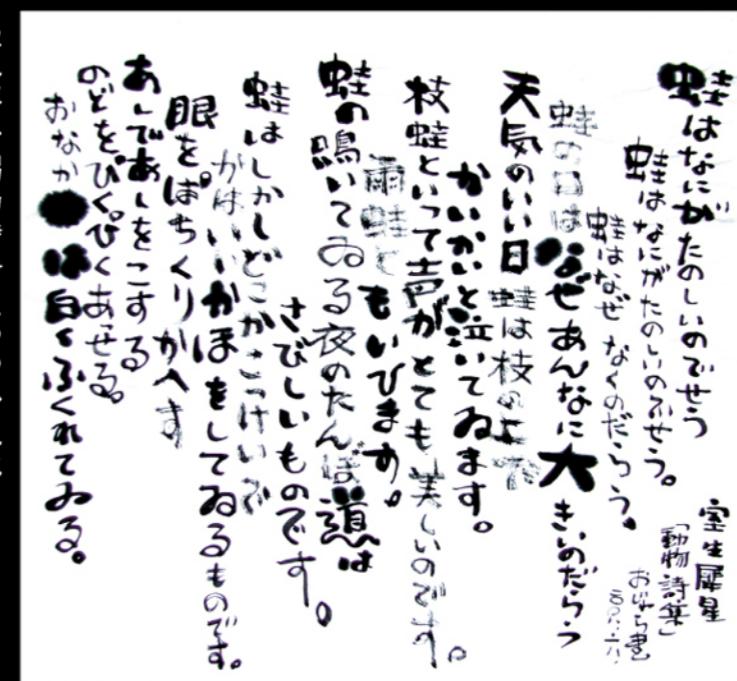
俳句に出会わなければ、私が、「藝術とは何か」を知る日は来なかつたかも知れない。

多くの人が関わる句会などでは、俳句以外の話が面倒で、今は一人で作っている。

日本に帰国してからは、書の展覧会にも足を運ぶようになる。書家の安東寿翠先生に書の見方を教えていただき、私の書の鑑賞への理解は一気に進むことになる。先生、いつもありがとうございます。

書と俳句は、下手糞の素人だけれども、自分の愉しみのために、これからも続けてゆきたい。

室生犀星『動物詩集』二〇〇八三尺



## IH 茶人

テレビ番組でイケメンの家元が、「茶道とは、精一杯のおもてなしをすること」と教えて下さった。そのあと、茶道具を下さるという方がいらっしゃった。彼は、藝大の塑像教室で一緒にした方で、茶の点て方も教えて下さった。

今度は、私を応援してくださっている、静岡の方が、お抹茶を贈って下さった。私は幸せ者である。

手の折れた古い鉄瓶は、IHクッキン  
グヒーターに乗せられ湯を沸かす。  
高い茶碗は買えないが、下手糞な  
自作の抹茶茶碗に茶を点て、画廊  
にて一服。

一期一会のこの瞬間に感謝し、精  
一杯のおもてなしで、一服の茶を  
皆で頂くという時間が、茶道の本質  
である。

理解が進むにつれ、日本の精神性  
を表現する1つの手段であることに気づき、その美意識の高さや、根底にある  
自由な空気で学ばれる。

私は、茶人になることにした。



### 御礼

まだ、無価値の、下手糞な私の絵や作品を、こんなにも沢山の方が応援してくださり  
買ってくださったことに驚き、感動しています。  
べより感謝し、深く御礼申し上げます。  
このお金で、また、絵の具を買い絵を描きま  
す。皆様のおべ遣いをべの励みにし、  
高い所を目指して、今後とも作品作りを  
続けてゆきたいと考えています。  
掲載作品をお持ちの方は、この図録と作  
品をセットでお持ち頂くことをお勧めします。



テラコッタ塑像 噴う女 2009  
ガラス絵 コップに手を入れる猫 2006

### ら・おじやら vol.1

発行人 おじやら りか  
発行元 おじやら画廊  
〒120-0034  
東京都足立区千住3-58  
毎日通り飲食店街  
090-9976-0224  
HP <http://ojara.net>  
mail rica@ojara.net  
2009.10 無断転載禁止  
(C)Rica Ojara  
All Rights Reserved.

# おじやら画廊 Gallery Ojara

小さなあたりえは、3年で、作品だけになり、私には、  
新たなる創作の場が必要だった。

もう少し広い物件を物色していたら、駅から至近の  
物件とご縁があり、私は、画廊として庵を開くこと  
した。

あたりえというのは、極めて閉鎖的な空間なのだが、  
ギャラリーには、沢山の人気が集ってくる。

アーティストの友人を増やす目的もある。  
ひとりよがりでは、絵は良くならない。

運営費捻出のため、近隣作家さんを集めて、展示を  
すると、参加作家さんの知名度もどんどん上がってき  
て、その事にも驚いた。

画廊は集まってる作家さん情報発信拠点となり、  
世に出す役割も兼ね備えていることを知る。  
画廊そのものが、私の作品でもある。

良い作品というのは、適正な露出さえすれば、必ず  
世に出られる。そのことだけは確かなのだ。良い絵か  
らは、隠し切れないオーラが漏れてしまう。

絵が売れないのは、絵が悪いからである。  
私はそう信じている。

『藝術の門』というのは、いつでも、誰にでも広く開かれ  
ていて、藝術を手にした者は、誰でもが入ることのできる  
世界である。

その高みに自分が辿りつけるのかは、まだ解らない。

応援して下さる方のお心遣いを支えにして、  
自分の力を信じて、また一枚を描こうと思う。

